



# ふるコンだより

発行責任者  
宇部市ふるさとコンパニオンの会  
会長 脇 彌生

憂鬱な日々が継続しております。新型コロナワクチン接種が、高齢者を中心に浸透してきたことが少し安心材料ではありますが、都市部の感染拡大が夏休みを機に地方に染み出すのではないかと、危惧しております。まだまだ安心はできない状態ですので、お互いに注意しましょう。ふるコンとしては、屋外のガイドを中心に、マスク必須、消毒、そして参加定員を縮小して、皆さんと有意義な時を共有したいと思っております。それでは、今年前半のイベントを振り返ります。

## てくてくまち歩き

「桜の名所、真締川公園や黄幡公園を散歩しながら彫刻も楽しみませんか？」

3/27

**現** 在新築中の宇部市庁舎のそばの真締川公園が出発地点。植音が響き、高くそびえるクレーンを右手に見ながら「産業祈念像」に宇部市の過去と未来に思いを馳せます。満開の桜の道を通りぬけ、今話題のアニメ映画「シン・エヴァンゲリオン」に描かれた宇部線を渡り、昔は紡績工場だった図書館の入口で小さな彫刻「冬の子ども」がようこそと出迎えてくれました。

220 年前の川の歴史をガイドしながら周辺の景色に寄り添うような彫刻の数々。皆さんは、今も脈々と流れている真締川の景色に感動されていました。



**気** が付けばもう「黄幡公園」へ到着です。かつてこのあたりは海でした。きっと昔の人はこの島を仰ぎながら波音を聴いていたことでしょう。今、私たちはこの山の上から桜を眺めています。途中、川のほとりで桜の老木から新芽が出ているのを見つけ、市制 100 年を迎える宇部市の新たな芽吹きを感じました。こうして参加者 23 名と楽しんだ 4 キロの道は桜の香りに包まれた小さな旅でした。(安井)

## てくてくまち歩き

「インスタ映えの丸尾崎灯台」

4/17

あいにくの雨の中、まず初めに向かったのが法秀様。今から 180 年前、地元丸尾の人々の難儀を救ってくれた旅僧は、その死後、法秀様地蔵像として祀られ、その遺徳は今もなお偲ばれています。その後、灯台方向へ進むと近隣の家を圧倒する豊の建物、江戸時代後期に岐波村の庄屋を務めた部坂邸へ。第 11 代当主の計らいで、幕末に中山忠光卿、伊藤博文や井上馨らが来泊したと云われる家の中を案内していただき、伊藤博文揮毫の扁額「闇然而日章」（あんぜんとして ひ あきらか）なども拝見しました。

また、751 年大内氏の氏寺として建立された弘濟寺では、本堂の屋根下の横木に悪夢を食べると言われる霊獣の獺と獅子が装飾された木鼻に、社寺建築の職人のちょっとした技を感じました。

いつしか雨も上がり、波戸（防波堤）へ到着。文政 11（1828）年に完成した波戸はロシアのサンクトペテルブルグ市の長石植組法の技法で造られ、頑丈なものです。船の往来も増え、丸尾は越荷会所や廻船問屋が建ち並ぶ貿易港として発展していきました。



サボテン博士として著名な伊藤芳夫氏の家は丸尾港の本陣と

なっていますが、柱などが漆塗りという立派な建物も取り壊され、空地となっています。天保 6（1837）年に建立した丸尾港の灯台（灯炉堂）は、残念ながら、昭和 17 年の台風で流出しましたが、前年に伊藤芳夫氏が撮影された貴重な写真が残っています。



丸尾波戸灯炉堂（昭和 16 年）

**丸** 尾港の守護神として豊後の国から勧請された丸尾三神社や大須賀遺跡、県の旧保養所跡等を見学後、行程を終了し皆様に喜んで頂けました。希望者が多く、翌週 23 日にも追加開催しました。（戸山）

## てくてくまち歩き

宇部市制 100 周年記念

「役場は上宇部からお引越し」

4/25

**宇** 部村（川上、小串、上宇部、中宇部、沖宇部）が一躍宇部市になった大正 10（1921）年頃の地図を片手に、琴崎八幡宮から市役所まで当時の道を歩きました。最初に宇部市民の心得として制定された「宇部市憲」の碑を見学。「協同一致」「共存同栄」の文字が見られます。大正 11（1922）年、市制記念事業として計画され大正 14（1925）年に完成した参宮道路（国道 490 号）の旧琴崎橋の親柱は今も琴崎八幡宮御旅所の階段の下にあります。宇部高校まで歩くと、そこは宇部村役場のあ

った所です。寺の前は宇部の中心で多くの店で賑わっていました。

全国初の村立宇部中学校は市立、県立を経て、のちに県立宇部高等学校になります。その後、梶返天満宮、道重上人生誕地に立ち寄って、昭和 3 (1928) 年にできた神原公園へ到着。地図では一面に田が広がっています。現存しない福原越後公像や神原の大鳥居の写真で当時を感じます。



最後に宇部郵便局と保健所跡地のあたりにあった一部4階建てでモダンな感じの旧宇部市役所の写真を見ていただきました。(池田)

てくてくまち歩き  
宇部市制 100 周年記念

「新川を境に宇部は西区と東区」

6/27

梅雨時とは言え、曇天は天の恵み。暑すぎず、肌寒くもなく、今回は街中をてくてく歩くことが出来ました。

今の宇部の中心部は、江戸時代初期はまだ海の中。常盤湖が出来た約 100 年後、真締川は現在の流れに改修され、田畑や塩田が広がり、明治以降には本格的な産業としての炭鉱が始まります。



大正期には、様々な工場や商店、鉄道が作られ、街は砂州の上、真締川の西と東に広がっていきます。人口の大幅な増加により、大正 10 (1921) 年、村から市へと変わります。

今回のてくてくは、真締川によって分けられた西区を巡りました。真締川の両側には、実は様々な記念碑的なものがありますが、

今回は産業祈念像を皮切りに、電灯が灯されていた緑橋、当初は松林の中に作られた宇部新川駅(現宇部興産ビル南側)、大正時代には錦橋を守っていたライオンは松濤神社と中津瀬神社で狛犬として今も頑張っています。



松濤神社のライオン像(市長も参加)

この時代、宇部では絵葉書が多く発行されたため、当時の雰囲気を見ることもできます。



「まちなかに何も無い!」と思っている方、街中こそ、プラタモリの発見や痕跡が多く残されています。江戸時代から宇部は大きく変化してきました。これからも変化していくこの街は、2021 年、市制 100 年を迎えます。(遠藤)

一枚の古写真から

常盤通りに面する現在の市役所も昭和 33 年に完成してから既に 60 年を超える歳月が流れ、建物や設備の老朽化が進んでいます。それに伴い庁舎の建て替え工事が令和 4 年の完成に向けて急ピッチで進んでいます。



この写真はその老朽化した現在の市役所がまだ建築中のもので、おそらく昭和 30 年頃新川橋方向から撮影したものでしょう。

当時は周辺にも大きな建築物もなく、市民は宇部市の中心に完成する立派な市役所に大きな期待を寄せていたことでしょう。(志馬)

一枚の絵葉書から



長門宇部緑ヶ濱

大正時代の絵葉書に、男性の一人は立ち、もう一人は座って海の方を眺めているものがあります。その左後方は子ども二人が手に何かを持ち「スクドかき」をしているのでしょうか。小さく写っています。

宇部地方史研究第十号に師井恒男氏(元小学校校長)の書かれた『私の緑ヶ浜』によれば、「この写真の左側(南)に瀬戸内の遠浅が見えるようだから、現在の岬市民センターの沖側にあった大正園あたりの松原だろう」と書かれています。昭和の初めまであった緑ヶ浜の様子を、師井氏の文章を一部抜粋して想像してみたいと思います。(脇)

『昭和 17 年 8 月 27 日の風水害の時に、藤山や厚南地方は、堤防が切れて流れた家もあり死傷者が出るほどの水害であった。私たちの東新川(東区)地区は、宇部港の防波堤も出来ていたし、岸壁もそのままだったのに、瀬戸内の高潮が浸水してきた。沖の山(緑ヶ浜)時代の海岸を正直に復元した事実を実感したわけであった。常盤通りや松山通りが、緑ヶ浜の砂州の一番高い砂丘であったことを、高潮という自然現象は私たちに復元して示したのだった。厳しいほどの緑ヶ浜復元を痛感するのだった。明治 44 年(1911)生まれの子ども時代の遊び場は、この風水害の高潮を防いだ砂原であった。ただ遊ぶだけではない、

町の中に住んでいる「新川の子」にとっては、「スクドかき」という役割があった。スクズともいった松の落葉は、当時の家の熱料づくりに子どもにふさわしい仕事である。井戸から風呂水を汲んで沸かすのには、スクドは火つきも火力も、紙やカンナ屑よりも良かった。(※広報部注釈「スクドかき」とは枯れた松の落ち葉(スクド)を拾い集めること)

**緑**ヶ浜の名残の松原で、大っぴらに遊べる条件付きの「スクドかき」であった。旧町名に「松ヶ枝町・緑町(後の錦橋通り)・老松町・松山通り」などあったり、明治 32 年(1899=常盤通りはまだ道路ではなくて松原の時代)に初めて新川の町に建った東本町の芝居小屋(劇場)を「緑座」と名づけたりしたのも、緑ヶ浜の名残りでもあろう。

**幼**いころから聞かされた緑ヶ浜のできたいわれは、「殿様の福原公が、宇部を善く治めておってのを神様が感応されて、ある夜、海鳴りがつづいて、朝になってみると、宇部岬から居能の犬の尾浦にかけて、一大砂州の緑ヶ浜が出現していた」といった伝説であって、越後公あたりか、そのすこし前くらいの時代に松株のある緑ヶ浜が突如として出現したような思いこみをしていた。



緑ヶ浜であったはずの見初小学校の裏から、古墳前半期の海岸砂丘上に構築された箱式石棺副葬品として出土したとの高杯(たかつき)が、郷土資料館に保存されていて、沖の山の砂州ができたのは先史時代の太古だと受け取るようになったのは、戦後になってからのことである。〈中略〉白砂青松の緑ヶ浜らしい風光として、つよく記憶に残っているのは

岬の大正園である。

市制施行の大正 11 (1922) 年頃の地図によって確かめてみると、東見初炭鉱(明治 41 年開鉱)と沖見初炭鉱(大正 9 年開鉱、昭和 6 年に東見初炭鉱が買収)との間に挟まれて、保存されていた自然の海辺であった。

**新**川小学校しかなかった新川の町の学童は、上級生になってからの夏の水泳指導には、この大正園まで、わざわざ徒歩引率されて行ったものである。この大正園で初めて日本泳法の正式指導を学校の先生から受けた。緑ヶ浜の白砂青松という実景も、この大正園から受けた。新川校区の学童が徒歩で行って水泳指導を受けたくらいだから、隣村の床波白土海岸や東岐波の波雁ヶ浜へ行くなどとは願いもしない時代だった。

だが、沖見初炭鉱が東見初炭鉱に買収されると(昭和 6 年)、大正園の青松も伐られ、遠浅の海もボタ土で埋められて、炭鉱社宅や作業場となっていく。緑ヶ浜の名残りととどめた白砂青松の遠浅の海は、私たちの目の前から消滅していった』

### 知っちよる? 宇部のこんな話

「ふるコンだより」の編集打ち合わせが、喧々囂々(けんけんごうごう)でも和やかに行われたある日のことです。宇部新川駅を利用していたふるコン会員からメッセージが入りました。

「宇部新川駅に、再びエヴァンゲリオン効果か、写真を撮る人々が見かけられます」

2021 年 3 月 8 日に公開された映画『シン・エヴァンゲリオン劇場版:Ⅱ』に庵野秀明監督の出身地、宇部市の風景が少なからず登場し、静かに宇部市を賑わせていたことはご存じでしょうか。コロナ禍でなければ、全国、全世界から多くのファンが訪れていたことでしょう。宇部新川駅に置かれたポスターの一つには、宇部新川駅から琴芝駅方面に向かう線路風景が起用されています。線路の先には、日立製作所製(大正 13 年)



の鉄橋。その手前に主人公が立ち…ファンならずとも色々と思像させられるもの。

**映**画本編でも、宇部新川駅や懐かしい小豆色のクモハ 42 型車両、宇部市の風景がリアルに描写され、映画封切り直後から宇部新川駅での記念撮影、常スマ!(トキスマ、旧井筒屋跡)での展示会場、宇部周辺各地を訪れる人、さらにネットに書き込む人々など、静かに賑わっていました。

映画は一部を除いて上映終了(7 月末時点)しましたが、約 25 年を経て漸く最終回を迎えたエヴァンゲリオン。

NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」では、庵野監督の仕事ぶりとともに宇部市の風景も映し出され、同年代の宇部市民としては感慨深いものを感じました。

(西山、遠藤)

### ふるコン新会員(10 期) 紹介

**私**は、兵庫県西宮市に生まれ、宇部市に住み始めてまだ 25 年余りですが、この宇部市を「第一のふるさと」と思っています。なぜなら、この宇部市で結婚して家族を作るなど、多くの思い出を作ってきました。私の最終目標は、趣味で長年勉強してきた英会話を生かして、「英語も話せる“ふるさとコンパニオン”になること」です。まだまだ宇部市の歴史も、風土も、(そして英語も)勉強不足ですが、これから一生懸命がんばりますので、よろしくお願いたします。(信濃)

**昨**年度受講した研修で、宇部市について様々な事を知ることができ、そして、メンバーの皆さんの勉強熱心な姿勢に感心しました。どの程度参加できるかわかりませんが、皆様からの刺激をもらいつつ少しでも知識が頭

の中に残っていくことを願っています。

現在、動物園のことも動物のこともほとんど何も知らない状況ですが、子供と関わる事が好きなので、将来的には動物園の案内などができるようになれば嬉しいのです。(高村)

**私**は宇部市で生まれ、山陽小野田市で育ちました。幼いころピアノを習っていた私を、両親は交代で渡辺翁記念会館のコンサートに連れて行ってくださいましたが、記念館の音色に癒され、寝てばかりいたと言われました。

私が初めてふるさとコンパニオンのことを知ったのは、協会長の記念会館の説明を聞いたときです。細部までこだわりぬいた設計、職人の息遣いを感じる事が出来、本当に光栄です。仕事の都合がつかず、あまり参加できず申し訳ない限りですが、宇部市の歴史を学び、子どもたちに伝えることが出来るように、頑張りたいと思います。(田中)

**最**初のきっかけは「古地図を片手にまちを歩こう」に参加しこれまで知らなかった宇部の歴史に興味を持ったことです。とても面白かったので次の回もすぐに申し込み、まち歩きにも何度か参加した後、観光ボランティアガイド養成講座を受講しました。

祖父が炭鉱に勤めていたので石炭記念館も懐かしい感じがして、いずれガイドできるようにな

りたいと思っています。(徳重)

**今**まで、「おもてなしゼミ in English」や「宇部志立市民大学」で宇部市の事を学んで、宇部に住んでいて知らない事ばかりで、面白くなりもっと知りたいなと思ったからですが、「てくてくまち歩き」に参加したこともあり「萩往還」「赤間関街道」などを歩いて、歴史にも興味があったからでもあります。今後、外国のお客様に案内が出来るようになったらいいなと思います。もっと、勉強が必要ですが、これからも、よろしくおねがいします。(溝上)

**第 29 回 UBE ビエンナーレ (現代日本彫刻展)**



今年、本来であれば第 29 回 UBE ビエンナーレ本展が開催されるはずでした。一年延びただけ、でも、なんだか寂しかった気がしませんか。やはり、「宇部に彫刻展が無いとなんとか楽しくない！」と思った人は少なくなかったのでは？と思ってしまいます。

応募作品(模型)展は、1 年遅れで今年 9/5~9/26 に湖水ホールで行われます。(火曜日は休館)

本展は来年、彫刻の丘で 10/2 開会式、11/27 まで開催されます。

**宇**部市の野外彫刻展が始まって、もう 60 年。向井良吉さんが宇部鉄工所の廃材を利用して『蟻の城』を制作されていたところを、不思議そうな顔で見っていた少年少女も、今は孫と一緒にときわ公園や街なかで、日常の一部として、あたりまえに彫刻の存在を感じています。

他の都市に行くと、「彫刻がまちなかに無い…」と再発見するのは宇部っ子。

宇部市民にとって、野外彫刻は生活の一部。ときわ湖畔に佇む『家族』や街なかの公園で『鳥と遊ぼう』、宇部の歴史の一部として、これからも残して欲しいものです。(遠藤)

**おいでませ山口観光ボランティアガイド永年表彰**

6 月

今年度の「おいでませ山口観光ボランティアガイド連絡協議会総会」は、コロナ禍で昨年に引き続き余儀なく中止となりました。ただ、その席で長年にわたる観光ボランティアガイド活動と観光振興への貢献をたたえる会員の表彰については、支部ごとに行われ、ふるコンも 6 月の例会に於いて表彰式が行われました。受賞者(敬称略)は以下のとおりです。  
20 年表彰：吉田幸生  
10 年表彰：浅野美須恵、今城ミサヲ、酒井信子、高木満洲雄、戸山和恵、牧野一彦  
受賞者には、表彰状と記念品が贈られました。(岡部)

**まち歩き予定表**

日付	企画名	集合場所	内容
9/12	古地図を片手にまちを歩こう小串	宇部新川駅前広場	鶺ノ島開作の痕跡を探して
9/25	てくてくまち歩き	宇部新川駅前広場	彫刻にドラマあり
9/26	てくてくまち歩き市制施行 100 周年	宇部市役所前	常盤通りから大正期の道をとときわ公園へ
10/3	古地図を片手にまちを歩こう上宇部西	琴崎八幡宮バス停	萩藩永代家老福原氏のまち
10/10	古地図を片手にまちを歩こう小串	宇部新川駅前広場	鶺ノ島開作の痕跡を探して
10/24	てくてくまち歩き市制施行 100 周年	ヒストリア宇部前	100 年前の海岸線と沖の山とは？
11/7	古地図を片手にまちを歩こう上宇部東	琴崎八幡宮バス停	神社仏閣が集まっています

■申し込み、お問い合わせ ※受付は開催日の一ヶ月前からです 定員は 20 名(コロナ対策中につき)

てくてくまち歩き

古地図を片手にまちを歩こう

宇部市観光グローバル推進課 TEL(34)8353 FAX(22)6083

